HOMAS 日本語版 ニューズレター

Hokkaido Massachusetts Society

北海道・マサチューセッツ協会

No.55
平成20年(2008年)12月10日発行
北海道・マサチューセッツ協会
会長 森本 正夫

発行所 〒060-0003
札幌市中央区北3条西7丁目
道庁別館12階
TEL011-231-3392 FAX011-231-3666
発行人 中垣正史
E-mail homas @ siren.ocn.ne.jp

北海道開拓の基礎を築いた指導者たち⑩

屯田兵育ての父・・北海道を愛した永山武四郎の生涯

―屯田事務局長・第二代北海道庁長官・陸軍第七師団長・貴族院議員を歴任―

■まえがき

1869年(明治2年)7月、明治政府は開拓使を設置して、北海道近代化の開拓事業を推進するために各分野にわたり諸外国の先進技術・文化の専門家78名を招いています。

1871年(明治4年) 7月、開拓使顧問として米国農務省長官ホーレス・ケプロン(1804－1885)を招き、続いて1873年(明治6年)1月、地質測量のベンジャミン・S・ライマン(1835－1920)、そして同年7月、農業牧畜のエドウィン・ダン(1858－1931)、さらに1976年(明治9年)7月、高等教育のウィリアム・S・クラーク (1826－1886) などを迎えて、その優れた指導力のもとにいろいろな開拓事業を進め、また「札幌農学校」を開校(明治9年8月)したのでした。彼らは総じて勤勉で、非常に熱心に仕事に取り組み、北海道開拓期の立派な指導者でした。

さて、江戸中期からのロシアの南下政策でロシア船の寄港・上陸が相次いでおり、日露の緊張は、明治政府にとっても脅威でした。これに対し、当時の北海道は、大国ロシアに対する軍備の強化が急務とされていました。この北方警備と開墾に従事させる「屯田制」を北海道に実施するという考えは、明治初年からあったようですが、1870年 (明治3年) の開拓使の提案、次いで西郷隆盛が士族による北方警備と開拓を主唱、さらに陸軍大尉永山武四郎の進言を受けて、黒田清隆開拓次官が、1873年(明治6年)11月に太政官に屯田制を建議し、翌1874 年(明治7年)に「屯田兵例則」が決定したのでした。開拓使は、ホーレス・ケプロンの助言により最初の入植地を「琴似」と定めて、すぐに兵屋208戸・中隊本部・練兵場・授産所などの兵村を建設しました。そして、翌年1875年 (明治8年) 5月、屯田兵・家族965人の第一陣が入植しています。以後、北海道には、各地に37の兵村ができ、合計約4万人が入植しています。＜1904年 (明治37年) 屯田兵制度廃止。明治15年2月開拓使廃止に伴って、屯田兵の管轄は開拓使から陸軍省に移されます。＞

永山武四郎(1837－1904)は、1872年(明治5年)9月から開拓使出仕。1875年(明治8年)3月、屯田事務局付となり、以後、札幌・旭川など各地の屯田兵制の創設に力を尽くし、「屯田兵育ての父」といわれています。今回は、屯田事務局長・第二代北海道庁長官・陸軍第七師団長・貴族院議員などを歴任し、北海道を愛した「永山武四郎」の生涯とその業績に光を当ててみたいと思います。

■永山武四郎の生立ちと屯田兵の開始

永山武四郎は、1837 年(天保 8 年 4 月 24 日)5 月 28 日、薩摩藩士永山清左衛門の 4 男として、鹿児島郡西田村(現鹿児島市)に生まれています。のち同姓喜八郎の養子となり、幼いときから剣術を藩の指南番大山某に学び、槍術を梅田九衛門について学んだといわれます。当時、多くの薩摩・長州の志士が、幕末から維新にかけて勤皇討幕など先鋭的な政治活動を行ったのに対して、武四郎は、1868 年(慶応 4 年)戊辰の役で、藩軍にしたがって明治新政府軍の一人として会津の攻略に出陣したのが彼の新しい時代の始まりとなったのでした。32 歳の武四郎は、初陣ながらよく奮戦し軍の先鋒となって若松城下に攻め入り勇名をとどろかしたといわれます。

明治新政府の重臣の中には、同じ薩摩藩出身者としては、長老格の西郷隆盛(10 歳年上)、黒田清隆(3 歳年下)、岩村通俊(3 歳年下)、伊藤博文(4 歳年下)などがいますが、武四郎は誠実、実直型で、根っからの軍人魂を貫き、1871 年(明治 4 年)3 月陸軍大尉となり、御親兵(後の近衛師団)の小隊長に任ぜられています。当時、明治政府の陸軍兵制採用について、イギリス式とフランス式の二派の議論があり、イギリス式を主張していた薩摩藩出身者は激論にやぶれて失意に陥ります。武四郎も一時はその職を辞する決意をします。

この頃、北海道は大国ロシアの南下政策の脅威に脅かされていました。それにたいして北門の防御体制は函建砲台にわずかの守備弊がおかれているにすぎない状況でした。かねてから北方の防備の必要性を主張していた武四郎は、心機一転、北海道の開拓と北方の防備にあたる決心をしたといわれています。武四郎は、1872 年(明治 5 年)9 月 15 日、近衛師団陸軍大尉・開拓使八等出仕として札幌に着任しました。

屯田制を北海道に実施するという考えは、早くから、北方警備と開拓に従事する困窮士族対策として各方面で考えられていました。最初は、1870 年(明治 3 年)開拓使提案、次いで、西郷隆盛の提唱がありました。1873 年(明治 6 年)10 月、武四郎を中心とした開拓使中堅幹部らが、黒田清隆に対し屯田兵制度の創設を進言し、また 11 月には岩倉右大臣たいしても同様の建言をしました。こうした開拓使たちの熱意を受けて、同年 12 月に黒田清隆の建言となって政府に受け入れられます。

翌年(明治７年) ６月、開拓次官黒田清隆は陸軍中尉・屯田兵憲兵事務総理兼任となり、開拓使と陸軍省の両方の予算と権限を持ち、北海道に君臨することとなりました。また、武四郎はこの新設された屯田兵事務局に配属されて準備計画にあたります。同年 10 月 30 日「屯田兵例則」が決定、正式に発足しました。その後、武四郎は、約 30 年間、屯田兵の指導・北海道の開発と北辺の防備に専念することとなります。

屯田兵村の設置場所の選定については、安政年間の松浦武四郎の探検調査や西郷隆盛の命を受けて調査した桐野利明の琴似を適地とする報告もありましたが、開拓使は、小樽、石狩、千歳方面にその適地をさがしていました。また松本十郎大判官の月寒を適地とする意見もありましたが、最終的には、開拓使顧問ホーレス・ケプロンの進言により、最初の入植地を札幌郡琴似村と定めて、早速

208 戸の兵村の建設に着手します。この琴似屯田兵屋の設計についても、ケプロンの意見により当初の２軒長屋が１戸建てとなったといわれます。しかし、ケプロン主張のストーブ・壁天井の白土壁などは採用されず、建坪も 17,5 坪となりました。住宅地は一戸あたり 150 坪でした。この兵屋建設は、開拓使東京出張所出仕の、後にサッポロビール生みの親となる村橋久成(1842-92)が開拓使官吏として 1874 年(明治７年)4 月 11 日来札し、具体的な区画割・地積測量の任にあたっています。

琴似屯田兵村(屯田兵第 1 大隊第 1 中隊)は、週番所(中隊本部)、練兵場、授産所、墓地などの中心施設を南側に集め、その北側に計 208 戸の兵屋を密集させて、周囲に１戸あたり 5,000 坪の農地を配置したものでした。さらに、大砲(ガットリング砲) 4 門、小銃(エンピール銃)1,600 丁をアメリカから買い入れています。

1875 年(明治 8 年)1 月、戊辰戦争で新政府軍(官軍)との戦いに敗れた宮城・青森・坂田(山形) 3 県と旧館藩(元の松前藩)の士族のなかから志願者を募り、5 月に屯田兵・家族 965 人の第一陣が入地しています。続いて翌年には山鼻兵村(240 戸、1,114 人)と発寒兵村(320 戸)に入地。発寒兵村は琴似兵村とともに第 1 中隊。山鼻兵村が第 2 中隊で、合わせて第 1 大隊編成とされました。続いて、明治 11・14・1719 年江別兵村(220 戸)、明治 18・19 年野幌兵村(225 戸)、明治 20・21 年新琴似兵村 220 戸、明治 22 年篠路兵村(220 戸)などに旧士族らが入地して、道央地区の開墾が進められていきます。

■西南戦争と屯田兵の出征

1679 年(明治 10 年)征韓論に敗れた西郷隆盛が故郷の鹿児島に帰り、反政府軍を率いて北上します。この「西南戦争」最大の戦場は政府軍が守る熊本城の攻防となり、田原坂の激戦で政府軍が西郷軍を撃破したことで帰趨が決します。西郷軍が鹿児島を出発したのが 2 月 15 日。田原坂の戦いが 3 月 20 日、以後西郷軍は鹿児島まで後退を続け、9 月 24 日西郷隆盛が城山で自刃して「西南戦争」は終ります。

この「西南戦争」に屯田兵も政府軍の一翼として出征しました。これを指揮したのが、准陸軍大佐堀基と准陸軍少佐永山武四郎(40 歳)でした。西郷隆盛は薩摩藩の大先輩であり、また屯田兵の構想を最初に企画・推進した最も尊敬すべき人物であり、この出征により武四郎は、最大の苦境にたちます。しかし、大義のために、堀大佐とともに、琴似・山鼻両兵村の屯田兵で第一大隊を編成して、4 月 9 日小樽港から熊本県下に出動しました。別働隊第二旅団に編成され、人吉の戦闘に参加して西郷軍を撃ち破り、“百姓部隊”と蔑視されていた屯田兵の勇名をとどろかしたといわれます。

第一大隊は戦局の決した 8 月 30 日東京に戻り、皇居で天皇陛下から親しくご慰労の言葉を賜っています。戦死者 8 名は、東京招魂社(靖国神社)に合祀されているといわれます。その後、第一大隊は、「ガットリング砲」５門・実弾 10 万発などを受け取り、９月 30 日札幌に凱旋しました。

＜翌 11 年 7 月、札幌偕楽園に「屯田兵招魂之碑」建立、西南戦争出征戦没者 8 人・病没者 28 人の英霊を祀りました。その後、明治 42 年 2 月中島公園内に移設、さらに昭和 9 年 6 月、札幌護国神社に移設されています。＞

永山武四郎は、この年 12 月、陸軍中佐に任じられ、さらに翌 1878 年(明治 11 年)12 月、屯田兵事務局長となって、その軍務を双肩に担うこととなります。この頃、札幌(北 2 東 6、)に私邸(現永山記念公園内「永山武四郎邸」)を建築しています。＜明治 13 年ころの完成と推測されており、和洋折衷の貴重な歴史的建造物です。北海道有形文化財に指定されています。＞

■永山兵村の発展

1879 年(明治 12 年) 5 月から約 1 ヶ月間、武四郎はロシアに出張しています。シベリア、樺太などのコサック騎兵隊の兵屋の構造や防寒の方策などを調査して帰り、その後の屯田兵屋の建築に利用したようです。

岩村通俊(1840-1915)は、開拓使判官時代、時の開拓次官黒田清隆と意見が会わず、1873 年(明治６年)開拓使を去りますが、1882 年(明治 15 年)会計検査院長として来道し、三県(函館・札幌・根室)巡視後に、北海道開発推進のためには、もっと本州からの移住を促進すべきであることと、上川の地に、京都・東京にならぶ「北京」設置の構想を政府に建言しています。その後 1885 年(明 18)に再び来道、屯田兵本部長永山武四郎らと実地に上川の国見をして、再度、上川地区への「北京」設置の構想を政府に建言します。

北海道の三県分割には、かねてきびしい批判もあり、政府は、1886 年(明治 19 年)、全道統一的な行政機関として、「北海道庁」を設置することとなり、岩村通俊が初代長官に就任します。岩村は、新たな開発政策の一つとして上川開発事業を進めます。まず、樺戸集治監の労働力により、市来知(現三笠市)から忠別太(現旭川市)までの開削がなされ、さらに樺戸・空知の両集治監が分担して、改修工事を行い「上川道路」が、1890 年(明治 23 年)に完成します。そして、永山村・神居村・旭川村が成立しています。

旭川市常盤公園の永山武四郎の像(昭和 42 年・＊北村西望作)

＜「永山村」の名は、永山武四郎の功績を認められた明治天皇のご意思による命名といわれます。＞

1888 年(明治 21 年)、上川屯田の設置が決まり、明 24 永山地区２兵村・明 25 東旭川地区２兵村・明 26 当麻地区２兵村に、本州各地から一兵村 200 戸・合　計 1,200 戸が移住。この上川屯田は、従来の困窮武士を対象とする「士族屯田」から一般農民も応募できる「平民屯田」に切り替えた最初のものといわれます。これらの給

与地は肥沃な土地と入地者の努力もあって次第に発展しますが、なかでも、永山地区は岩村通俊・永山武四郎による用水路・水田計画などの基盤整備もあって急激な発展をみました。

永山武四郎は、第２代北海道庁長官(明 21,6～明 24,6)となり、岩村の意図を受け継いで、上川への北の帝都「北京」設定を働きかけますが退けられ、変って政府は「離宮」の上川設置を決定しています。道庁は早速、現地調査をして、離宮予定地をナエオサニ(現神楽岡)とし、この地一帯を御料地としたのですが、結局、札幌・小樽地区の反発と日清戦争の始まりによって頓挫し、離宮の建設は実現しませんでした。上川神社境内には、武四郎の歌碑と「上川離宮予定地」の記念碑が建立されています。

この間、永山武四郎は、本道の開拓・産業の振興に力を尽くし、次々と屯田兵村が誕生することになります。明治 20 年代の永山武四郎は、屯田兵本部長・北海道庁長官・そして第 7 師団長となり常に最高責任者として全力投球した時期でした。

■北海道を愛した武四郎

武四郎は、1885 年(明治 28 年)、日清戦争に出征するため屯田兵を率いて出発しましたが、東京で終戦をむかえています。その翌年、1896 年(明 29 年)第 7 師団創設に伴い、師団長になって、1900 年(明治 33 年)まで努めました。軍を退役した後、1903 年(明治 36 年)11 月、貴族院議員に勅撰されますが、翌明 37 年 3 月帝国議会出席のため上京中病にたおれ、食道ガンのため 5 月 27 日夜、67 歳の生涯を閉じました。北海道の土になるという本人の遺志により、棺に入れられた遺体は上野駅から列車で札幌へ移され、自邸に安置されました。葬儀は 6 月 2 日、神式で盛大に行われ、儀杖兵一個大隊が粛然と大礼服に覆われた棺を守ったといわれます。永山邸から豊平橋までの沿道は会葬者の人垣で埋め尽くされたということです。武四郎の生前の意志により、旧豊平墓地に埋葬されましたが、1982 年 (昭和 57 年)、里塚霊園に改葬されています。

永山武四郎は、旭川の永山神社に祀られ、また、旭川神社・北海道神宮末社の開拓神社にも合祀されています。

＊北村西望(1884-1987)は、島原市出身。彫刻家。代表作・長崎の「平和祈念像」は世界的に有名です。

〈主な参考文献及び参考資料〉

□「開拓使時代」(さっぽろ文庫 50)　□「屯田兵」(さっぽろ文庫 33)　□「琴似屯田百年史」(琴似屯田百年記念事業期成会)　□「琴似屯田歴史館資料室」展示配布資料　□「ほっかいどう百年物語」STV ラジオ編 中西出版　□「よみがえった『永山邸』-屯田兵の父永山武四郎の実像- 」 高安正明著　共同文化社　□「開拓につくした人びと第 3 巻」北海道総務部文書課編集　理論社刊　□「目で見る旭川の歩み」(開基 100 年記念誌・旭川市)　□「北海道の歴史」榎本守恵著　北海道新聞社　□インターネット資料、他

平成20年度 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ 第5回実施記録

平成20年度は、「北海道を知る歴史発見の旅シリーズ」①円山北海道神宮コース、②三角山大倉山コース③時計台大通公園資料館コース、⑤知事公館赤れんが庁舎コース、の4回を企画・実施いたしました。＜ 都合により④藻岩山コースは中止しました ＞

最終回は、2008年10月29日(水)、知事公館見学及び庭園散策―ミニ大通公園―ロマネット通り―道庁赤れんが庁舎歴史解説見学コースの歴史散策を、20名の参加者とともに楽しみました。今回は、知事公館は渡辺隆雄館長の説明をいただき、赤れんが庁舎は、札幌商工会議所ボランティアガイドに説明をお願いしました。その後、京王プラザホテルでの昼食会となりました。以下、ご参考までに各見学先の歴史解説の概要をご紹介しておきます。

＜ 当日は、「資料集」40頁を配布しています。 ＞

知事公館

この一帯は、明治8年(1875)開拓大判官松本十郎が郷里の鶴岡藩(現在山形県)士族156名を招き原野を開墾させて桑園を経営した跡地でした。(現在の地名「桑園」はこれに由来します。) 明治25年(1892)ころ、この桑園が分譲された時に、知事公館の敷地は、開拓使に奉職・札幌農学校第3代校長(明14～明19)・札幌農業事務所長などを歴任した森源三が官を辞して、これを購入し邸宅を建て養蚕業を営んだのでした。

大正4年(1915)、三井合名会社が購入、三井別邸として使用、昭和11年(1936)に「三井別邸新館」(現在の知事公館)を建設しました。戦後になって、米軍の接収・札幌市所有などを経て、昭和28年(1953)道の所有となり、以来、三井別邸新館が「知事公館」として使用されています。

庭園散策では、「村橋久成胸像」(中村晋也作・平成17年)・「桑園碑」(町村金五揮毫・昭和40年)・「国富在農碑」(乃木希典揮毫・明治45年)・竪穴住居跡など、さらに安田侃「意心帰」・流政之「サキモリ」などの彫刻も見学しました。

ミニ大通公園とロマネット通り

「北4条通歩行者専用道」(ミニ大通)は、札幌市の街路事業として昭和50年(1975)に造成されました。北4条通の11・12丁目がフラワーゾーン(花の広場)、13・14丁目がドリームゾーン(夢の広場)、15・16・17丁目がプレイゾーン(遊びの広場)として、それぞれ市民の憩いの場となっています。

また、平成元年(1989)、「札幌都心部ロマネット(ロマンチック・ストリート・ネットワーク)計画」により、北3条通りゾーン・北1条ゾーン・植物園周辺・美術館文化施設を中心としたゾーンなどが、都心の新しい顔づくりとして整備されました。今回は、その一つ「北2条ロマネット通り」を歩きました。

道庁赤れんが庁舎

明治2年(1869)7月開拓使設置(～明15廃止)。初代判官島義勇次いで岩村通俊らの先駆的努力による、基盤整備の上に、開拓次官黒田清隆の努力により米国農務省長官ホーレス・ケプロンをはじめとする78人もの外国人指導者が招かれて、欧米の先進技術が導入されました。これは北海道近代化の大きな特色となっています。庁舎としては、明治6年(1873)建立の開拓使本庁舎に次いで、三県一局時代を経て、明治19年(1886)北海道庁設置により、初代長官岩村通俊は赤れんが庁舎建設にあたり、米国マサチューセッツ州庁舎をモデルとしたアメリカネオバロック様式の洋風大建築物(10階建のビルに相当する高さ)として「北海道庁本庁舎」を、明治21年(1888)に完成しました。塔頂部の八角塔は、開拓使顧問ケプロンの計画によって建てられた開拓使本庁舎(明治6年(1873)建立―明治12年(1879)焼失)を模したものです。以来昭和42年(1967)に現在の新庁舎ができるまで、80年間にわたり北海道の拠点となりました。明治42年(1909)の火災による内部焼失や昭和43年(1968)の開道百年記念による復元工事等を経て国の重要文化財に指定されています。

現在は、総合的な歴史博物館として、1階の「北海道立文書館展示室」、「売店休憩室」、2階の「北海道開拓記念館―北海道の歴史ギャラリー」、「樺太関係資料室」、「国際交流・道産品展示室」、「記念室」、「赤れんが北方領土館」等の展示室があり、本道の歴史に関する資料や文書などが収集展示されています。また、町村金五知事の依頼で制作されたといわれる、すばらしい歴史絵画の大作20枚が廊下や一部の展示室に掲げられています。

第３回 名古屋ボストン美術館の旅 ご案内

2009 名古屋ボストン美術館ゴーギャン展鑑賞･お伊勢参りツアー

2009 年 6 月 5 日(金)～7 日(日)　２泊３日

米国マサチューセッツ州のボストン美術館(Museum of Fine Art, Boston)は,1870 年創立、所蔵美術品 50 万点をこえるといわれる世界屈指の美術館です。名古屋ボストン美術館は、その姉妹館として 1999 年 4 月にオープン。米国ボストン美術館が誇る膨大な収蔵品の中から厳選された作品の数々を、毎回テーマを変えて紹介していく新しいスタイルの美術館です。今回の「ゴーギャン展」(2009 年 4 月 18 日～6 月 21 日）も、日本初公開の大作を含むボストン美術館秘蔵の多数の作品が公開される特別企画展です。以下に、北海道・マサチューセッツ協会主催の「第 3 回名古屋ボストン美術館の旅」の概要をご案内します。

1 日目 今回の美術鑑賞ツアーは､なによりも､ボストン美術館門外不出の､ポール･ゴーギャン(1848－1903)の芸術集大成といわれる「我々はどこからきたのか我々は何者か我々はどこへ行くのか」の大作鑑賞がポイントです。フランス文明社会から逃避して、タヒチにプリミティブな野生と純粋な魂の楽園を求めたゴーギャンの世界に感動したいと思います。

２日目 一生に一度はぜひとも行きたい「お伊勢参り」です。平安時代中期から盛んになり、江戸時代には全国各地からの伊勢参りブームとなります。「伊勢は七度､熊野は三度｣とまでいわれた伊勢神宮は､日本で最も高い格式を持ち､全国神社の根本とされています。内宮・外宮の「ニ所大神宮」をはじめ 14 の別宮、43 の摂社さらに末社などを合わせて 125 もの社があるといわれます。このやすらぎに満ちた神秘の空間、太古が悠久の時を越えて現代に息づいている聖地を一日がかりで見学・参拝したいと思います。

3 日目 原則は、フリータイム。名古屋市内１Ｄａｙチケット（産業技術記念館・ﾉﾘﾀｹの森・名古屋城・徳川美術館）などをご紹介いたします。会員の親睦もふくめた内容ですので、皆様の多数のご参加をお待ちしています。

記

期　　日　　2009 年 6 月 5 日(金)　～7 日(日)　２泊３日
経　　費　　未確定ですが（65､000 円程度？）
　　＊ホテルは２名１室　（一人部屋ご希望の方は、別途追加料金）
　　＊現地交通費は、各自負担となります。
募集人員　　15 名程度　（催行人員 10 名）＜予定＞
参加申込　　後日ご案内の正式募集要項・参加申込書により、2009 年 4 月 30 日(木)までに事務局にお申込みください。

＜ 後日、[参加者募集要項・申込用紙]をお届けします。＞

七飯町とコンコード

姉妹都市交流ニュース

第５代 七飯町国際交流員　ウィットニー・ウォレンさんの 帰国スピーチ

（訳文のみ）

わぁ！私が七飯町に着いた日からもう 2 年が経ったなんて信じられません。日本語も、この国に何があるのかも、私の生活がどんなものになるのかもまったく知らずに来ました。私が出逢ったものは「寛大さ」です。たくさんの話をしてくれた英会話の受講生、一緒にご飯を食べた人たち、私のつたない日本語を理解しようとほほ笑んで聞いてくれた人たち。本当にありがとうございます。一緒に「じゃんけん列車」をした保育園の子供たち、夏・冬のキッズスクールに来てくれた４・５・６年生の児童たち、私に日本料理を教えてくれた人たち、そして一緒に働いた役場職員の皆さん、本当にありがとうございます。

アメリカに持ち帰る素晴らしい思い出がたくさんできました。着付けをしてもらったり、茶道を習って自分でお茶をたてたり、保育園の神輿と本物の神社の神輿をかついだり、活気のある和太鼓演奏を観たり、家庭の親子丼や手打ちそばを作ったり、田植えを体験したり、相撲大会に出たり、七飯スキー場でスノーボードを習ったり、町内をランニングしながら皆さんのきれいな庭を眺めたり、こんな素晴らしい経験ばかり出来て私は本当に幸運だと思います。私は皆さんにとって良いアメリカの大使になれたでしょうか？そうであったらと願います。日本についての話をいっぱい持って帰り、日本で学んだことを伝え、出来るだけたくさんの人たちに日本を訪れてもらいたいと思います。

私たちの町はこのような姉妹都市関係を続けることが出来てとても幸運です。私もそうだったようにこの交流が続ていく中でより多くの両町民が良い影響を受けて交流に携わってくれるよう願います。このお別れは「さようなら」ではなくて「じゃあね」です。なぜならまた必ず帰ってくるからです。

第６代七飯町国際交流員　ボビー・カーグラさんの　着任挨拶

Greetings!!! My name is Bobby Kargula. Like many persons who have come to visit Nanae, I am from Concord, Massachusetts. I arrived here in Nanae on Thursday, October 23rd. While I am here, I hope to accomplish two major goals. Firstly, I will work to bring the towns of Nanae and Concord closer together. Secondly, I will do my best to become as fully immersed and educated in the Japanese language and culture as possible. I pledge to you that I will work tirelessly to accomplish these goals!

I attended high school at Concord Carlisle Regional High School In Concord ,Massachusetts. , Thereafter, I graduated from Fordham University in New York City, with a Bachelor of Arts degree in Communication. I enjoy traveling, adventure, exercising, filmmaking, photography, playing the piano

and, of course, Japan!

My interest in the Japanese language and culture started when I was seven years old. I frequently visited my grandmother who lives in Honshu. During my visits I would be exposed to many facets of Japanese Life. Although I have experienced much in Japan, there is so much more that I need to learn.

I have spent much time studying language and culture in Japan. Oddly enough, I am still not fluent in the Japanese language. I frequently encounter the same problems many foreigners face when they first come here. However, I do intend to work diligently in order to become fluent as quickly as possible.

I can decisively say that Nanae has exceeded all of my expectations. I absolutely love it here! The food in Nanae is absolutely delicious, the people are most hospitable, and there are so many activities to take part in! The community of Nanae is most interesting to me, therefore, I hope that I will be able to meet as many of you as I can. I frequently run around the town of Nanae for exercise, so if you see me, please feel free to say "hello!"

In addition, if I can help you with any community activities or in the event that you have any questions about Concord, Massachusetts of the United States, please do not hesitate to ask me. I am here in Nanae to serve you and will do whatever I can to achieve this objective!

（訳文）

こんにちは！私はボビー・カーグラといいます。これまでにもコンコードから七飯を訪れた人はたくさんいますが、私もその１人で、マサチューセッツ州コンコードの出身です。１０月２３日の木曜日に七飯に到着しました。ここで働くにあたって２つの大きな目標があります。１つ目は、両町の交流を深め、より近いものにすること。２つ目は、日本文化と日本語に浸るというくらい、たくさん学ぶということです。この２つの目標を達成するためにはどんな努力も惜しみませんと皆さんに誓います！

私は、コンコードにあるコンコード・カーライル高校を卒業したのち、ニューヨークにあるフォーダム大学でコミュニケーションの学士号を取得して卒業しました。趣味は、旅行、冒険、運動、映画作り、写真、ピアノなどです。もちろん「日本」も私の好きな趣味の１つです！

私が日本語や日本文化に興味を持ったのは７歳の頃です。本州に住む祖母を訪ねてよく日本を訪れていました。滞在中は色々な日本の文化に触れました。つまり、日本は全く初めてというわけではありませんが、まだまだ習うことはたくさんあります。

これまでに日本文化を学ぶと共に長く日本語の勉強をしてきましたが、不思議なことにまだ流暢に話すことはできません。日本に初めて来る外国人が出くわす問題、つまり言葉の壁に私もよく突き当たります。それでも私は出来るだけ早く日本語を習得するために一生懸命頑張ります。

七飯町は私の予想をはるかに超えた、と言っても過言ではありません。とっても七飯が大好きです！七飯の食べ物はとても美味しいし、人々は親切だし、参加したいイベントがたくさんあります！七飯の地域には特に興味がありますので、できるだけ多くの町民の皆さんとお会い出来ることを願っています。ランニングが私の趣味の１つなので、もし町内で走っている私を見かけたらぜひ声をかけてください！

また、私がお手伝いできる地域のイベントや、アメリカ・マサチューセッツ州・コンコードに関係する活動や聞きたいことなどがあれば何でも言って下さい。皆さんの役に立つことが私の七飯での仕事ですので、何でもやります！

コンコード町を訪問して

総務課国際交流係長　寺谷　光司

今回の訪問団は総勢14名（中学生５名、高校生３名、引率教員１名、町民代表３名、役場随行職員２名）で10月13日～23日までの11日間の日程でコンコード町を訪問してきました。

今回の海外交流派遣研修に参加するにあたり、大きな不安がありました。こらまで、海外旅行へは１度行っておりますが、ほとんど英語を使う必要がなく、また、国内旅行すらあまりしたことがありませんでした。その中で、役場からの引率、しかも副団長として無事に任務を遂行できるのか、英語が話せない私がうまくコミュニケーションがとれるのか、いままでの諸先輩たちが培ってきたコンコード町との交流をさらには深めることができるのか、などさまざまな不安のあるまま出発しました。アメリカ行きの機内でもその不安はのこり、13時間という長い航路の中ニューアーク空港につきました。その後、ボストン行きの飛行機へ無事に乗り継ぐことができましたが１時間あまり飛行機が遅れようやくボストンへ到着。そこでは、トムさんをはじめ、ディンティーノさん、ジュンコさん、私のホームステイ先のデイビットさんなど多くのコンコード町の方にやさしく出迎えてもらい、すぐにコンコード町の方々の心の暖かさを感じることができ、私の胸につかえていた不安が一気になくなったこと覚えております。

その日、私は他の訪問団とは別にデイビットさん宅へまっすぐ向かいましたが、家に向かう車中でデイビットさんは日本語で私にいろいろと話しかけてくれたのがとても印象的でした。さらに、自宅に到着したのはもう９時を過ぎていたと思いますが、玄関には日本語で「ようこそ」と書いた張り紙がしてあり、とても感動いたしました。自宅では待っていた奥さんのリアナさんがボストンで非常に好まれているというサケの料理を用意してくれていて、とてもおいしくみんなで食事をしました。

デイビットさんはコンコード・カーライル高校の英語の先生でありますが、自宅はボストン市内に住んでおり、

翌朝6時20分に自宅を出発し高校へ向かいました。朝6時ころというと日本ではもう明るくなっている時間ですが、コンコード町ではまだ暗く、7時くらいにようやく夜が明けてきました。まだ薄暗い中、初めてコンコード・カーライル高校を訪れ、何もわからないままデイビットさんについていきましたが、広大な敷地と、建物にまず驚かされました。7時ころになるとスクールバスが次々と到着し生徒たちが通学してきます。日本の通学時間とは違って、1時間目の授業は7時30分から始まります。七飯町の訪問団の生徒も、さすがにまだ緊張ぎみの様子でありました。

それから、タウンハウスへ向かいました。車内からコンコードの街を眺め、まず感じたことはどの家も大きく、敷地が広く綺麗な庭が多いことに驚きました。しかし、この辺は街中で小さいほうだと聞きさらに驚きました。

タウンハウスでは、タウンマネージャーと懇談し、コンコードの町旗の話を聞きました。七つの星は沼を現し、三本の線は川を表しているそうです。また、1階には姉妹都市提携の写真等が掲示されており、あらためてお互いの街の親密さを実感しました。また、今回の訪問団は企業関係の後継者である町民の代表3名が参加しており、アメリカのガソリンスタンド、木材店、造園業、消防署などそれぞれの同じ業種の経営者と熱心に意見交換するなど、とても有意義な研修であったと感じております。

後日、コンコード町との方と話しましたが、今年の訪問団も昨年同様とても積極的でよかったとの言葉をいただいており、やはり、目的をもって行くことは非常に大事なことであると感じました。

今回は、やはりクランベリーには魅せられました。事前研修の中でもクランベリー農場のことをいろいろ勉強したり、写真などでみていきましたが、七飯の土壌がクランベリーの栽培に適していると聞き非常に興味深く見学してきました。最初、クランベリーの実は小さく探すのに苦労しましたが、ありそうな所を教えていただきようやく見つけることができました。これについては、長い目でみて、できれば七飯町が日本での先駆者となれれば良いと考えます。

ホストファミリーのデイビットさん宅では大変お世話になりました。デイビットさんはボストン市内を地下鉄で移動し、ハーバード大学、チャールズ川、ボストンの港、ビルからの夜景、アメリカで一番古いレストランなど普通の観光旅行では間違いなく経験できないであろうところへ私を案内してくださいました。大変楽しい思い出です。しかしながら、その中で私は残念な光景を目にしました。それは、ボストンの中心街を歩いているとき街中、あるいはチャールズ川の河川敷にたくさん生活困窮者がおりました。その人たちは紙コップを持ちお金をめぐんでくださいとお願いしており、貧富の差が拡大しているのを間のあたりにしました。さらに、地下鉄に乗車中、大声で辺りの人誰にでも話しかけている中年の方がおりました。私は、酔っ払っているのだと思っておりましたが、後からデイビットさんに話をきいたところ、その方はイラク戦争へいって帰国後、精神的におかしくなってしまったんだということを聞きました。このような貧富の差、戦争での被害者を目の当たりにしあらためて格差問題の対応、世界平和への願いを強く思います。　ニューヨーク滞在中、国連本部を見学しました。その入り口には鉄砲の先がねじれ曲がっている銅像がありました。これは、戦争はNOということです。

私たちの国、日本でも格差社会といわれ、勝ち組、負け組みなどの言葉がつかわれるようになっておりますが、その格差をなくすことができれば、世界平和が一歩前進できるような気がしてなりません。私はそう願います。今回の研修に参加できたことに対し皆様に深く感謝申し上げます。私自身すばらしい経験ができました。また、中高生にとっても、町民代表で参加された方もこれからの人生の中でこの研修に参加できたことはすばらしい経験であったに違いありません。

最後に、私のホストファミリーのデビット・ナレンバーグさん、リアナさん、トム・カーティンさん、スーザンさん、そして、毎日私たちのため付き添っていただいたジュンコ・カーグラさん、また、コンコード町のみなさんに、大変お世話になりましたことに対し、深くお礼申し上げるとともに、これからも、両町の交流が末永く続くことを願って研修の報告とさせていただきます。大変ありがとうございました。

北海道･マサチューセッツ州姉妹提携20周年へいよいよ発進！

2010年（平成22年）は、いよいよ姉妹提携20周年を迎えることになります。大切な節目としていくつかのことを考えています。

（1）姉妹提携20周年マサチューセッツ州訪問団の派遣とマサチューセッツ州からの訪問団来道の相互交流を中軸として、将来にむけての若い世代の交流を促進させる事業を企画したい。

（2）できれば、日米の高等学校間交流の促進、高校生を中心とする勉強会の継続的実施、日米高校生による姉妹提携20周年記念のイベントなどを考えたい。

企画事業の概要（案）

1、姉妹提携20周年記念訪問団の派遣交流

○姉妹提携20周年記念マサチューセッツ州訪問団派遣（予定）

期　日　2010年（平成22年）10月頃　<6日間～8日間程度>

内　容　（詳細検討中）

費　用　約300,000円(未定)

○姉妹提携20周年記念訪問団の来道

期　日　2011年（平成23年）2月　　雪まつり期間中

内　容　日米高校生を中心とした20周年記念「雪像」作成などの、記念事業・イベントを検討したい。

2．北海道とマサチューセッツ州の高等学校間の交流を積極的に推進する。

（現在、マ州の協会協力担当者とプログラム立ち上げの検討を進めている。）

北海道とマサチューセッツ州の高等学校間の交流推進計画

現在、両州の協会が連携して企画中です。

○ 北海道側 ― 道国際課・道教委とも相談して公立高校及び私立高校の国際交流の状況を把握し、国際交流希望校のリストを作成する。

○ マサチューセッツ側 ― 米マ州協会内に「Secondary School Exchange Committee」(高等学校交流委員会)が組織されて、同じ作業を開始しています。次のステップとして、このリストにより交流促進をはかる。

3．北海道内の高校生（主として札幌圏）を対象とする

<仮称>「マサチューセッツ教室 in Hokkaido」を継続的に開催する。

北海道内の高校生のための「マサチューセッツ教室 」

― 国際交流に関する学習と実践英会話教室 ―

両州の交流の歴史・米国及びマサチューセッツ州に関するレクチャーと実践英会話を継続的に実施する。(現在、検討中です)

期　日　毎月第2土曜日　10：30 ～ 12：00

会　場　札幌市社会福祉総合センター（大通西19丁目）

内　容　専門的なボランティアスタッフによるプログラム

事務局短信

2008年 最近の実施事業の感動のご報告です（概 略）

「2008 ボストン美術館浮世絵名品展・ピカソ展鑑賞ツアー」(2008,10,17～19実施)

当初は10名を越えるお申込がありましたが、最終的には7名での大きな感動と発見の旅行となりました。江戸の下町情緒の残る浅草2泊―早朝の浅草の街並み・隅田川の静かなたたずまい―昼間の浅草の賑わい―そして夜の浅草仲見世シャッターに描かれた下町の四季折々の一大絵巻。さらに江戸東京博物館の浮世絵名品展･常設展など、おまけに葛飾柴又の寅さんの世界まで足を伸ばして、まるで現代とは違う、異次元の世界を旅してきた感がありました。また、東京国立博物館「大琳派展」・東京都美術館「フェルメール展」もすばらしいものでした。次回は、多数の皆様のご参加を!!

2009年は、「第3回　名古屋ボストン美術館の旅」―2009名古屋ボストン美術館ゴーギャン展・お伊勢参りツアー」(2009,6,5～7)を実施予定です。<詳細は7頁ご案内をご覧下さい>

平成20年１２月２９日(月)　マサチューセッツ州から音楽の使者が来札します !!

2008年12月29日(月)7:00ＰＭ開演、札幌サンプラザホールで、「ロバート・ハニーサッカー バリトン・リサイタル」の公演が予定されています。有名なバリトン歌手のハニーサッカー氏と共演者ソプラノの佐藤美保氏(札幌市出身)、ピアノの安田紀子氏が、ボストンからやってきます。北海道とマサチューセッツ州の姉妹交流にも努力されています。北海道･マサチューセッツ協会も後援しています。どうぞ、多数の皆様のご来場をお願いいたします。(詳細は、最終頁全面広告参照)

バークリー音楽院タイアップ「北海道グルーブキャンプ2009」<2009,3,29～4,4>について

アメリカ･ボストンの名門バークリー音楽院(Berklee College of Music)のタイガー大越教授他5名の音楽専門教授陣を招いて、札幌市芸術文化財団の主催で北海道におけるジャズ音楽文化の振興と若い世代を育成するためのジャズセミナー「北海道グルーブキャンプ2009」が下記要領で開催されます。今年度で4回目になります。「北海道・マサチューセッツ協会」も後援しています。

開催期間　2008年3月29日～4月4日 ＜ 6日間（4月1日は休講） ＞
会　　場　札幌芸術の森アートホール
参加対象　小（高学年）・中高生　約120名　＜受講料は各パートとも4万円＞
募集部門　アルトサックス、テナーサックス、バリトンサックス、トランペット、トロンボーン、ドラム、パーカッション、ベース、ピアノ
講師陣　　タイガー・大越（主任、金管楽器、トランペット）　デヴィッド・クラーク（ベース）
　　ジョアン・ブラッキーン（ピアノ）　ユーロン・イズラエル（ドラム、パーカッション）
　　ジム・オドグレン（木管楽器、アルトサックス）

なお、受講者の中から優秀者数名に、バークリー賞として「バークリー夏期講座」(5週間）への参加資格（授業料免除）が与えられます。

来年度のマサチューセッツ州からの高校生グループ来道予定について＜詳細日程は未定です＞

2009年4月中旬～下旬、コンコードカーライル高校グループ(22名)が、札幌・七飯を訪問します。また、ノーサンプトン高校の秋の来札予定は、経済不況のため中止になりました。

新入会員紹介（ 2008年7月26日以降 ）　＜個人会員＞

福永　純子　　和泉　智子　　澤田　浩一

Robert Honeysucker Baritone Recital

オペラから黒人霊歌まで・・・「札響の第9」で絶賛を博した名バリトンによる札幌初リサイタル!

マサチューセッツ州からやって来た音楽の使者

ロバート・ハニーサッカー バリトン・リサイタル

ピアノ：安田紀子　　ソプラノ：佐藤美保
（賛助出演）

2008 12.29 月 7:00PM開演（6:30PM開場）

札幌サンプラザホール 北24条駅より徒歩3分 ☎758-3121

入場料 3,000円（全自由席）

4プラ☎251-5574／大丸☎221-3900
道新☎241-3871／チケットぴあ ☎0570-02-9999
（Pコード306-601）

Program

黒人霊歌　流れよ、ヨルダンの川／ジェリコの戦い
神への誓約／同志を組もう　他5曲

オペラ・アリア

ヴェルディ●歌劇「アイーダ」より
二重唱「まあ！お父様！」～「かぐわしい森に再び帰ろう」

ヴェルディ●歌劇「オテロ」より
無慈悲な神の命ずるままに（クレード）

チャイコフスキー●歌劇「スペードの女王」より
リーザのアリア「ああ、私は悩み疲れた」

ビゼー●歌劇「カルメン」より 闘牛士の歌

ガーシュイン●歌劇「ポギーとベス」より
私の夫は死んでしまった
俺らはないものだらけ
ベス、お前は俺のものだ

Profile

ロバート・ハニーサッカー *Robert Honeysucker : Baritone*
数多くのオペラにおいて主役や重要な役どころをこなし、オーケストラでも、ボストン交響楽団はじめアメリカ国内の主要オーケストラの公演にも度々出演している。彼の歌う黒人霊歌は究極の黒人霊歌と称され、多くの人々の心を揺さぶる。1995年、ボストン・グローブ紙の「ミュージシャン・オブ・ザ・イヤー」に選ばれた。過去2回「札響の第9」に出演し、絶賛を博した。マサチューセッツ州ケンブリッジ市在住。

佐藤　美保 *Sato Miho : Soprano*
北海道教育大学札幌分校特設音楽科卒業。現在、ボストン近郊を中心にオペラ、コンサートでの音楽活動を行っている。ドナ・ロール、ロバート・ハニーサッカー、安田紀子の各氏に師事。マサチューセッツ州ボストン市在住。

安田　紀子 *Yasuda Noriko : Piano*
大阪音楽大学卒業1993年に渡米。マサチューセッツ州ロンジー音楽院でチェンバロをピーター・サイクル氏に師事し、アーティスト・ディプロマを取得。現在、ロンジー音楽院オペラ科主任コーチ、ボストン大学オペラプログラム・コーチ、大阪芸術大学大学院非常勤講師。マサチューセッツ州ケンブリッジ市在住。

主催：ロバート・ハニーサッカー バリトン・リサイタル実行委員会
後援：札幌市、札幌市教育委員会、北海道新聞社、北海道・マサチューセッツ協会
お問い合せ：アドビューロー ☎011-271-4225